

WIN^{CONCORD} コンコード NEWSLETTER

今 どこで どうしているのだろうか

副代表 橋 爪 文 雄

(留学生 アドバイサー)

「遠く離れた、この国で、彼は今、どうしているのだろうか。」

傍らの地球儀に、いつも私はこんなことを語りかける。彼が帰国してから、もうかれこれ10年になる。帰国して2、3年は文通が続いていたのだが、バツタリ途絶えてしまった。彼の母国にも国内紛争が起こったのである。かなり深刻な状況にあると報じられている。

それでも私は、彼の古いアドレスにエアメールを送り続けている。

彼、妻そしてベビー、無事にいて欲しい。和歌山での楽しかったこと、悲しかったことなど思い出す余裕は彼らには許されない日々なのだろうか・・・。

WIN Concord (和歌山国際ネットワークの仲間たち)が発足して満3年。その間に、多くの方々がメンバーとして参加して下さった。お陰で、WIN Concord は着実な活動を続け、世界の各地からの多くの留学生を迎え、そして送り出して来ました。

これまで留学生が一番少なかった和歌山も、今、和歌山大学では50人を越える留学生が、和歌山県大でも10人近くの留学生が学んでいます。これですべて「留学生が『和歌山の国際化』への原動力の一つ」になりました。

WIN Concord のメンバーのあなたは、留学生たちの和歌山での生活を、より心豊かにするための大きな支えになっています。留学生たちとの交わりの中で得られたもの、それは「国際化とは“心の痛みが分かる”ことである」ということでしょう。

昨年の総会で、磯野代表が提唱された「国際ネットワークに向けて」、それは和歌山の国際化のための重要な課題と言えるものでもあります。帰国した留学生たちが、世界のどこかで、和歌山での留学生生活を、そしてWIN Concord のあなたを思い出してくれる。そんな彼らとのネットワークを作って、この和歌山を世界のステージへと導くきっかけになればと期待されます。

これからの一年、さらに一人でも多くの人々に、このWIN Concord のメンバーになっていただくために、メンバーの一人一人が活動の輪を広げ、また留学生たちとの交流を深めて行っていただきたい、との願いを込めてペンをおきます。

なお、和歌山大学では、理工系学部の新設、II経済学部跡地(市内西高松)に留学生宿舎(24室)の建設が本年度の文部省予算で認められ、今後、留学生の増加と処遇の向上が見込まれることを申し添えたいと思います。

インドネシアを知っていますか

ディディック・プルワディ

(インドネシア)

まず第一に、この機会に私の国を皆さんに紹介させていただこうと思います。日本の人達の中には私の国のことを知らない人やインドネシアという言葉さえ聞いたことがない人達もたくさんいるようです。

私は一年以上日本に住んでいますが、日本人にとってはバリの方がインドネシアよりも有名だと言えます。私が最初インドネシアのことを尋ねた時には誰も知りませんでした。でもその時バリについては誰も知りませんでした。でもその時バリについて尋ねたら、「バリ島は行ったことがあるよ」とか「バリだったらわかりました」と言った人がいました。日本人は「Bari」と発音しますが、本当は「Bali」です。多分あなたもバリへは行ったことがあっても、インドネシアのことは知らなかったでしょう。ちょっと変な話ですが、本当なのです。

インドネシアは世界で一番大きな群島です。この群島は太平洋とインド洋が交わる場所に位置し、アジア大陸とオーストラリア大陸のかけ橋となっています。群島は5つの大きな島と約30の小島群から成り、島の総数はインドネシア海軍海洋事務所の新しい統計によると、岩礁や砂州などを含め、17,508です。この戦略的な位置は国の文化、社会、政治、経済に常に影響を及ぼしてきました。

主な島は、473,606 平方キロのスマトラ島、132,107 平方キロのジャワ・マズラ、ボルネオ島の3分の2を占め(残り3分の1はマレーシア)539,460 平方キロあるカリマンタン島、189,216 平方キロのスラウェシ島、そして世界第二の大きな島、ニューギニアの約半分、421,981 平方キロあるイリアン・ジャヤ島です。インドネシアの他の島は皆小さく、バリもそのうちの一つです。

私の国には夏と冬はありません。気候は6か月ごと

に変わります。二つの季節しかなく4月から9月までは乾期で、10月から翌3月までは雨期です。ですからインドネシアを訪れるのに一番良い時期は日本の夏休みと同じく7月、8月です。気温はたくさん島の山によって異なりますが、平均気温は次のように分けられます。海岸の平野: 28°C、内陸部や山間部: 26°C、高い山地は標高によって変わりますが23°Cです。

私の国では、川は灌漑のためだけではなく交通にも重要な役割を果たしています。ある島ではほとんどの川が便利な交通路として利用されています。小さな船で買い手と売り手が商売する水上マーケットも見られます。ジャワ島ではブンガワンソロ川、シタルン川、ブランクス川が灌漑用に利用されています。

1990年の人口調査によれば、インドネシアの総人口は1億7930万人です。1991年のソビエト崩壊後は、インドネシアは、中国、インド、アメリカ合衆国に次いで世界で4番目に大きい人口を擁しています。ジャワ・マズラ島の大きさはインドネシアの総面積の7%以下ですが、ジャワとマズラだけで国全体の70%の人口が集中しています。これと対称的に、カリマンタとジャヤを合わせて国土の50%の面積があるのに人口は5%しかありません。

もし種々の伝統文化を楽しみたいと思ったらインドネシアへ行けば見られます。インドネシアの各地方にはそれぞれ特有の踊りや歌、楽器、芸術があります。例えば、伝統的なあやつり人形はワヤン・クリットとワヤン・ゴレックです。ワヤン・クリット影絵劇の人形は派手な色を塗った皮で作られており、一方、ワヤン・ゴレックの人形は派手な服を着せた木製の人形です。ワヤン・クリットの劇もワヤン・ゴレックの劇も一人のダランによって人形が操られ、声も一人で使い分けます。ダランは作者、役者、歌手、踊り手、監督を一人で兼ねているのです。ワヤン・クリットもワヤン・ゴレックもガメランというジャワの楽器の伴奏で演じられます。ワヤン・クリットはジャワ島の中央部で人気があり、ワヤン・ゴレックはジャワ島西部で盛んです。ジャワやバリの



有名な踊りや劇はヒンズー教の神話に基づいています。パティック（ろうけつ染め）もジャワの伝統的な芸術のひとつで、インドネシアの文化に重要な役割を果たしています。

インドネシア政府は、イスラム教、プロテスタント、カソリック、仏教、ヒンズー教の5つの宗教を認めています。それぞれの宗教には特別の祝日があります。クリスマス(12/25)はプロテスタントとカソリックの人々にとって特別の日ですが、この日はインドネシア全国民の祝日になっています。インドネシア人の約80%はイスラム教ですから、インドネシアは世界中で一番イスラム教の人口の多い国ということになります。私の国へ行ってみれば、たくさんの宗教や文化をもちながら、人々がどんなに平和に暮らしているかわかるでしょう。たいていの人々はイスラム教ですが、彼らは他のいくつかの小さな宗教も尊重しています。政府の目標は、国全体の宗教の種々の信者の調和を推進することによって、インドネシアの宗教的な生活を改善するとともに、信者たちにそれぞれの宗教上の教えを完全に理解し、実行する機会を広く提供することです。

(訳 松下 勤)



バリ島の踊り

Do You Know Indonesia?

Didik Purwadi

(Indonesia)

First of all, I would like to take this opportunity to introduce my country to all of you. I think many of you do not know about my country, or may have never heard the word: Indonesia!

According to my experience while living in Japan for more than one year, I can say that to Japanese, Bali is more famous than Indonesia. When I first asked about Indonesia, nobody knew. But then I asked about Bali and one person said, "*Bari-to? Watashi wa itta kotoga aru yo!*" And another said, "*Bari dat-lara watashimo wakarimashita!*" (Japanese pronounce Bali, "Bari.")

This is a little bit strange to hear, but true! May be you have already gone to Bali and, at the same time, didn't know Indonesia.

Indonesia is the largest archipelago in the world. The archipelago is on the crossroad between two oceans, the Pacific and the Indian, and bridges two continents, Asia and Australia. It consists of five major islands and about 30 smaller groups. The new figure for the total number of islands, including rocks, reefs, sandbanks, etc. is 17,508 according to the Indonesia Naval Hydro-Oceanographic Office, and its strategic position has always influenced the cultural, social, political and economic life of the country.

The main islands are: Sumatra which is about 473,606 sq km in size; Java/Madura is 132,107 sq km; Kalimantan, which comprises two-thirds of the island of Borneo (the other one-third is Malaysia) measures 539,460 sq km; Sulawesi is 189,216 sq km; and Irian Jaya is 421,981 sq km, which is about half of the world's second largest island, New Guinea. Indonesia's other islands are smaller in size and include the most famous island: Bali.

My country doesn't have summer or winter. The climate changes every six months. There are two seasons, the dry season from April to September, and the rainy season from October to March of the following year. For this reason, the best time to go to Indonesia is between July and August, which is the same time as Japan's summer vacation. The weather is effected by the large number of islands and mountains in the country.

The rivers in my country are not only for irrigation. And most rivers serve as useful transportation routes. You can also see markets on some river systems where both buyers and sellers use small boats. On Java, the Bengawan Solo, Citarum and Brantas rivers are used for irrigation.

According to the 1990 Population Census, the total number of the country's population is 179.3 million. With the dissolution of the former Soviet Union in 1991, *Indonesia is now the world's fourth populous country* after China, India and the United States. The size of Java and Madura islands is less than 7% of total land mass of Indonesia, but 70% of the population lives on Java and Madura alone. By contrast, Kalimantan and Irian Jaya, together comprise more than 50% of the country's total land mass, but only contain some 5% of the nation's total population.

If you want to enjoy many kinds of traditional culture, you also can find it in Indonesia. Each province of Indonesia has special traditional dances, songs, instruments and art. Examples are the traditional puppets *wayang kulit* and *wayang golek*. Puppets of the *wayang kulit* shadow play are made of colorfully painted leather, while the *wayang golek* puppets are colorfully dressed wooden puppets. Both the *wayang kulit* and *wayang golek* theatres are operated by the *dalang* who makes the puppet speak in different voices. At the same time, the *dalang* is a composer, improviser, producer, orator, singer, dance master and stage manager. *Wayang kulit* and *wayang golek* performances are accompanied by the *gamelan* Javanese musical instruments. The *wayang kulit* is very popular in Central Java, while the *wayang golek* is popular in West Java. The famous dances and dramas of Java and Bali are derived from Hindu mythology. Batik is also an important part of Indonesian culture. Batik is one form the traditional arts of Java.

The Indonesian government permits five religions: Islam, Protestant, Catholic, Buddhist and Hindu. Each religion has a special national holiday. Although Christmas (December 25), is a special day for Protestants and Catholics, it is a holiday for all Indonesian people. The majority of Indonesian people are Islam (about 80%). *Indonesia is the world's most populous Islamic nation.* If you go to my country, you will see how we can live peacefully, even with many different religions and cultures. Most people are Islamic; however, they are respectful of the other minority religions. The government's main target is to improve Indonesia's religious life and to offer wide opportunities for religious followers to understand, comprehend and implement their respective religious teachings completely by fostering harmony among the various religious followers throughout Indonesia.



チュニジア

モーセン・スーシ

(チュニジア)

チュニジアはアフリカ大陸の北部にあり、北は地中海、東南部はリビア、そして西部はアルジェリアと接しています。アフリカにありますが、ヨーロッパに近く、アラブ世界に属する戦略的な位置にあるため、この地域におけるほとんどすべての歴史的な影響を受けてきました。

長い歴史を通して、次々に人々の波が国と文化を作りながら通り過ぎて行きました。初期の人々はベルベル人でした。紀元前12世紀にフェニキア人が入って来て国を作り、チュニジアは、紀元前6世紀には強力な都市国家カルタゴの中心になりました。カルタゴは紀元前814世紀に成立し、紀元前146年にローマに滅ぼされるまで続きました。アラビア人のイスラム教徒は、7世紀に、アラビア半島から現在のエジプト、リビアを経て、チュニジア及び北アフリカの多くの地を征服し、ベルベル人の住人もイスラム教になりました。古くからそこに住んでいた人々も徐々にアラビア人の習慣に同化し、チュニジアはイスラム文化の中心になりました。

1534年、チュニジアはトルコに征服され、1881年にフランスの植民地になるまで、オスマン帝国の支配下にありました。チュニジアはこの時代の文化的、商業的な遺産を受け継いでいます。

チュニジアが独立したのは1956年で、1957年にハビブ・ブルギバ大統領の下で共和国となりました。ブルギバ大統領は1987年ジンエル・アビディン・ベン・アリ現大統領によって追放されるまでチュニジア共和国を治めていました。

チュニジアでは多くの文明が栄え、それらの文明はチュニジア人の国民性に影響を与えてきました。それらのうちで、イスラム教の文明ほどチュニジアの

TUNISIE



人々に強い影響を及ぼしたものはなく、イスラム教はチュニジアの社会や人々の特質の形成に大きく貢献しています。チュニジア人はアラブ・イスラムの主体性を誇りとする一方で、アフリカ及び地中海諸国にも属しており、他の文化に対して門戸を開放しています。

チュニジアの人々の習慣はいろいろあり、場所によって違いますが、たいていイスラム教やアラブ諸国の習慣と似ています。その一つが「ラマダン」というイスラム教の1カ月の断食で、チュニジア人は一般的に忠実に守っています。日没が近づくと、みんな家に帰って断食の中断をするので、商店は閉まってしまい、道も人通りがなくなります。人々に祈りを知らせる人の声が夕暮れの空に聞こえ、静かな日没を迎えます。しかし、夜になると、商店は再び開店して、通りには人々が溢れます。この断食月は祭りで終わりになりますが、祭りには家族みんながそろってお祝いのために集まります。

人々がよく行く所は、地中海の美しい砂浜、ローマ帝国の建築遺跡、カルタゴの古代フェニキア人都市の遺跡、古いイスラム教寺院などで、どの地方にも他の所とは違った人気のある物があります。

南部には、チョットジェリド湖などの塩湖の下流にサハラ砂漠が広がっています。一連のオアシスが砂に浸食された泉をめぐる道路に沿って点在しています。椰子は甘い実をもたらしてくれる神聖な木です。



ジェルバ島の人々

(糖分と栄養のあるセルロースが含まれていて、日本ではお好み焼きに使われます。) 100 ほどの泉と 200 もの記念碑やイスラム寺院のあるネフタは美しいオアシスですし、すぐれた建築様式とれんが造りの家が見られるトズルは砂漠の中のすばらしい町です。ザルジスには美しい砂浜があり、たくさんのホテルやクラブが並んでいます。ジェルバ島はチュニジアで一番大きい島で、美しい砂浜は椰子の木に囲まれた静かな庭園のようです。

チュニジアの東海岸の地中海沿いにはスースなどいくつもの町があります。モナスティルには国際空港があり、モクニンは昔からの宝石の貿易港で、マーディアは漁港です。スース周辺の地域は温暖なため、スース、モナスティル、マーディアは海岸リゾートでもあります。海岸から中部に入ると、カイラワンがあります。ここは北アフリカのイスラム教の最初の首都でした。イスラム地域の寺院の尖塔や古い建築遺跡は旅行者が最も訪れたいと思う所です。

チュニジアの北部は緑の珊瑚のような海岸です。このあたりは緑の丘が300km も続く海岸線が見られます。北部で一番大きな町はビゼルトです。アインドラハムはチュニジアの人々が緑と澄んだ空気を求めて訪れる観光地のひとつです。

最後に、カルタゴ及び古代アラビアの都市のチュニス遺跡は最も訪れてほしい所です。チュニジア北西部のナベウル、ハマメットでは色々な風景が見られます。温暖な気候で、美しい景色や興味を引かれる物がたくさんあります。

(訳 松下 勤)

TUNISIA

Mohsen Souissi

(Tunisia)

Tunisia is located on the northern coast of the African continent and is bound by the Mediterranean Sea to the north, Libya to the southeast, and Algeria to the west.

Due to its strategic position (close to Europe, part of the Arab world and located in Africa), Tunisia has been kept open to virtually every historic influence in the area.

Throughout history, successive waves of people have passed through Tunisia, shaping the country and its culture. The primitive people were Berbers. Settled in the 12th century B.C. by Phoenicians, Tunisia became (6th cent. B.C.) the center of the powerful city state of Carthage, which was built in 814 B.C. and destroyed by Rome in 146 B.C. Arab Moslems, moving out of the Arabian Peninsula and across what is now Egypt and Libya, conquered Tunisia and much of the rest of North Africa in the seventh century and the Berber population was converted to Islam. The indigenous population gradually assimilated to Arab customs, and Tunisia became a center of Islamic culture.

Turkey conquered Tunisia in 1534 and ruled it, under the Ottoman Empire, until the French colonization. In 1881, France established a protectorate over Tunisia. The country retains a cultural and commercial legacy from this period.

It wasn't until 1956 that independence was achieved in Tunisia, and in 1957, the country became a republic with Habib Bourguiba as president. Bourguiba ruled until he was ousted by the current president, Zine el-Abidine Ben Ali, in 1987.

Although Tunisia has known many different flourishing civilizations, all which contributed to shape the Tunisian personality, none of them has had as strong an influence on the Tunisian peoples as did the Islamic civilization due to its fruitful contributions to the society and its deep humanitarian characteristics. While proud of their Arab-Islamic identity, Tunisian people are equally attached to their African and Mediterranean membership and are open to other cultures.

Customs of the Tunisian people vary from location to location. There are a lot of customs, most of them similar to those of Muslim and Arab countries. Among them is "Ramadhan," the month of fasting for Muslims, and it is generally observed by Tunisians. As the sunset approaches, shops close and streets are deserted since every person returns home to break the fasting with all family members. You can easily witness the silent sunset. The voice of the



ケロアンの大モスク



チュニジアンドア

muezzine (person calling for prayer) can be heard in the sky summoning people to prayer in the calm and splendor. However, at night shops reopen and the streets become very lively and full of people. This fasting month is ended by a festival which is an occasion for all family members to meet for celebrations, donations and reconciliations.

Popular attractions include beautiful sandy beaches on the Mediterranean coast, architectural remains of the Roman Empire, the site of the ancient Phoenician city of Carthage, as well as old Islamic mosques. And every region has a special attraction that widely differs from the other.

In the south, below the Chott Djerid and other salt lakes, stretches the SAHARA desert. The land appears with dunes. A chain of oases are dotted along the road around springs which have been invaded by sand. The palm is a sacred tree blessed with sweet fruit (rich in sugar and a very nourishing source of cellulose used in Japan for Okunumiaki). Nefta, with its 100 springs, 200 monuments as well as its mosques, is a lovely oases and Tozeur with its remarkable architecture and its houses built with bricks is an attractive city of the desert. Zarzis has beautiful beaches along which are numerous hotels and clubs. Jerba, the biggest island of Tunisia, is clear and silent with beautiful beaches; it is a quiet garden covered by palm trees.

Moving north to the center towards the eastern coast of Tunisia, Sousse heads a series of coastal towns which huddle together along the Mediterranean Sea: Monastir with its international airport, Moknin with its traditional jewel trade, and Mahdia with its fishing port are among a few. This area around Sousse has a moderate to mild climate. This mildness as well as the beaches of Sousse, Monastir and Mahdia favors all the pleasures a seaside resort can offer. Moving to the center of Tunisia away from the coast is Kairwan, the first capital of Islam in north Africa. Its minaret and old architectural remains of Islamic area are the most sought-after by visitors.

The northern part of the country presents the green coral coast of Tunisia. This region is characterized by its three hundred km coastline with its backdrop of green hills. The biggest city of this northern area is Bizerta. Ain Draham is one of the favorite destinations for Tunisians in search of greenery and sparkling fresh air.

Finally, Tunis' remains of the city of Carthage and the old Arabic city are the most important areas to visit, and the northwest part of Tunisia (Nabeul, Hammamet) represents an encyclopedia of landscapes. A climate, always temperate and agreeable, creates an atmosphere of constant enjoyment among the beauty and the many attractions that Tunisia has to offer.

留学生紹介

大学院の部

・Ananchai Khomapatraporn タイ/経営
ちょっと、おとなしいといわれています。タイという国を、少しでも知りたい方とおつきあいできればと思っています。音楽・映画・旅行・スポーツが趣味です。

・Hooi Lai Wan マレーシア/経営
始めまして。旅行・料理・ハンディクラフトが趣味です。日本の料理・文化そして言葉もしっかり身につけたいと思っています。

・Yap Fui Fook マレーシア/経済
マレーシアに興味を持っている方達と親しくなれることを望んでいます。趣味はスポーツ・読書です。よろしくお願いします。

・夏 克丁 中国/社会情報システム
性格は穏やかだと思います。欠点は煙草を吸うことです。日本の生活習慣などを教えて頂きたい。趣味はスポーツです。また、音楽を聴くことも好きです。

・朱 光明 中国/国際政治
アジア諸国の政治制度について勉強するために、二か月前に、中国の済南市から和歌山市に来ました。中国山東省社会科学院の研究者の一員として社会科学を研究しています。(研究歴六年)現代の日本と中国は、社会構造の相違が、はっきり見えるけれども、一連の相通な社会問題もあると思います。皆様との話を通して、日本の文化や民族性をより理解したいと思っています。特技は書道です。

・高 慶 豊 韓国/経済学

・許 泳 韓国/経済

・Lacanilao Nyrma Yabut フィリピン/教育

学部生の部

・Robiza Mat Johar マレーシア/ビジネスマネジメント
日本語が少ししか話せないなので、通じない時はごめんなさい。日本人の習慣を教えてもらいたい。本を読むことが好きです。1日、5回お祈りをします。

・朱 慶平 中国/ビジネスマネジメント
日本にきて三年目になりました。二年間日本語を勉強して、和大に入りました。スポーツや音楽鑑賞が私の楽しみです。物事に対して広く関心を持ち、つまらないことに、こだわらない性格です。車の運転を教えてください。

・李 旭東 中国/ビジネスマネジメント
九州で一人暮らしの経験があります。性格は几帳面で、我慢強いといわれたこともあります。日本人の勤勉さや辛抱強さも少し分かります。紀州の方達の人情にふれたい。日本の普通の人々の生活を知りたい。そのために、多くの人と話したい。趣味は一人旅・バドミントン・日本の相撲を見るのも好きです。餃子作りが得意です。

・王 慧華 台湾/経済
日本に来て一年半になります。国が違えば、習慣はもちろん人生観や価値観なども異なると思います。自分の国以外の人と知り合って、今まで知らなかったことを教えてもらうのを楽しみにしています。性格は活発で、人と付き合うのが好きですから、台湾のことを知りたい方は、どんどん私に質問してください。趣味はスポーツ・旅行です。

・唐 海林 中国/国際文化
中国に対して少しでも関心を持っている家庭とおつきあいしたい。性格は真面目です。積極的に自分の好きなことをしたい。趣味は旅行・読書・映画・友達を作ることなどです。

・宮崎 ミルタ 里香 パラグアイ/経済
暇な時は エグイ・フルー、ビートルズ など60-70年代の音楽を聴きながら、“ボケー”っとして過ごすの

が大好きです。日本に来ることができて、とてもうれしく思っています。

・趙 紅蓮 中国／教育

去年の12月に、日本にきました。こちらの生活にもだいぶ慣れてきました。日本の自然や社会・歴史・文化それに科学技術などを、知りたいと思っています。いろいろ本を読んで、日本について、どんどん勉強していこうと思っています。

・金 鉄捷 中国／歴史

バドミントン・バレーボールが大好きです。
海内知己を存す。天涯比隣の如し。

・李 丹梅 中国／ビジネスマネジメント

性格は明るいです。魚が好きではありません。

・Murtaza Bin Mohammed マレーシア／経済学部

I am the fifth from 6 brothers and sisters.
My hobbies are music, sports, and reading.
My ambition is to become a successful businessman in the near future.

・張 崑 中国／大学院2年 学校教育

日本と日本人に対して、私には不思議なこと、理解できないことが、まだいっぱいございまして、人間の相互理解と交流、専攻の研究にと、興味津々の日々を送っています。杯を傾けながら、日本及び世界のことを語り合える、楽しい日本の友人を多く持ちたいと思っています。趣味は旅行・切手蒐集・料理など。

・汪 易 中国／学部3年 経営

日本に来て3年目です。今年、3年生になって、勉強・遊び・交友などを、より一層充実させたいと思っています。よろしくお願いします。

・黄 翠鳳 香港／学部3年 日本語文化

私は言葉の勉強が大好きで、テレビを観ながら、辞書をひいたりして、日本語の勉強の一つとして楽しんでやっています。これからも、楽しい留学生活を送りながら、もっと日本語を磨きたいと思っています。趣味はローラースケート・卓球。おいしいお茶とあまい梅干しが大好きです。



January 12, 1994

TOYOTA MOTOR CORPORATION

ブータンを訪ねて

後藤 芳則

昨秋、和歌山大学を卒業後帰国した留学生の国、タイとブータンを旅行しました。

ブータンは、九州の1.1倍の面積で、立憲君主国です。ブータン人、ネパール人、チベット人から成り、公用語として、チベット語系のゾンカ語、英語、ネパール語など、多言語多方言が地域により用いられています。国教は、チベット仏教で、宗教心があつく、出家も一般的です。平均寿命は45歳。

(ブータン入国)

バンコックを出発したブータン国営航空の小型ジェット機での旅は快適で、機内サービスのブータンミスト（ウィスキー）の酔いも手伝って憧れのブータンへの期待はふくらむ一方です。約5時間のフライト後、上空から見たブータンの第一印象は「あれ、日本に戻ったんと違うか!」でした。雲の切れ間が見える谷あいには民家が点在し、その周囲には黄色に稲の実った段々畑が続いていたのです。

コスモスが風にそよぐパロの空港に着くと、今度は「無事に入国できるんやろか」という心配がムクムクと頭をもたげてきます。今回の訪問は、一昨年帰国し、ブータンの通産省に勤めているティンレイ・ウォンチュク（Thinlay Wangchuk）君が政府と交渉してくれて実現したのですが、申請もしていなければ許可証もなく、唯一の頼りは彼からの電話で「ゴトーサン達のビザが取れました。空港窓口で120とってください。」だけだったのです。ゲートのところで手を振って迎えてくれる浅黒いウォンチュク君の顔がいつもより男前に見えました。しばらく待たされた後、ヒゲ面のニイチャンのGOサイン、ヤッター! やっと入国を果たしました。

(動物園)

ブータンで最大の都市は人口2万5千人の首都ティンブーです。ティンブーには、この国唯一の動物園があり、しかも幻の珍獣といわれているターキンがいるというのです。ターキンは、黄金色の毛を持ったウシとヒツジの中間のような動物で、おそらく世界中でターキンを見ることのできる動物園はここしかないと思われる位、とにかく珍獣なんです。

物見高さでは人後に落ちないメンバーのこと、一も二もなく「行こ行こ」ということになり、出掛けました。車は人気のない道路ぎわに止まり、そこからは徒歩で幅1m程の山道に入っていきます。案内板もなければ人もいません。「おかしいなあ」と思いながらついて行くと森林の中に金網が張られています。日本にある小規模な動物園を考えていた一同は茫然。気を取り直して探すと、はるか遠くの木々の間で豆粒のような固まりが動いています。「あれや、あれや」と騒いだのですが、ひょっとしたら、この自然環境抜群の動物園は、ターキンが人間を観察する施設だったのかも・・・。



青空市場で



ツェチュ（祭り）正装で
（右端ウォンチュク）



タイのエメラルド宮殿で卒業生ミャオとブイと
（前列左から）

（ウォンディフォソンのタコ）

その日の宿舎のあるウォンディフォソンの町へ向かっている時、ウォンチュク君が、この町の少し下流にブータン人の近づかない湖があると言います。理由を聞くと、その湖には大きな人喰いタコがいて、近づくと食べられるのだ、と真顔で答えてくれました。この後、車の中は一変して学術的な議論が沸き上がりました。「なんで海のないブータンの人がタコを知ってるんやろ」「淡水産のタコは聞いたことがないから見つけたら大儲けできるで」「淡水産のタコを酢ダコにしても同じ味やろか」「ネェネツかまえに行こ」・・・さすが我らのブータン訪問団はレベルが高い???と感心した次第。

（ブータンの松茸）

ウォンチュク君が「皆さんのために松茸を取ってあります。」と言ってくれました。香り、姿とも日本産と変わらないと聞いて「いくらするやろ」「ブータンで松茸を食べられるとは思わなかったなあ」と一同期待に胸がふくらんできました。ブータンのツアー会社の社長、チャワン・ドルジさんのお宅で感動の対面となりました。しかし、細かく切り刻まれた松茸の残骸(?)を見て一同愕然となりました。私があせて「こ、これ! どうして食べるん?」と

聞くと「トウガラシといっしょにバターで炒めんです。」という答えに、我々は重大な危機に直面していることを認識しました。さっそく、協議の結果、日本人の繊細・緻密なテクニックを発揮することになり、団員の岡田君が取り組みました。細切れになった松茸を一つずつ丁寧に焼いてくれるのですが、香りが日本と同じであることがわかっただけとなってしまう、今だに心残りになっています。

（博物館）

空港のあるブータン第二の都市パロにこの国唯一の博物館があります。パロを見降ろす丘の上の古城を改築した建物は、どっしりと周囲の景観にマッチしたすばらしい所です。ウォンチュク君のコネで館長が親切に案内して下さり、初めは、切手・仏像・民族衣装など、ごく普通の博物館だったのですが・・・徐々に顔が引きつってきました。厳重な陳列ケースに飾られている品は「龍のうろこで作った籠」「馬の卵」「人の歯に咲く花」「お経の浮き出た石」などなどの説明を受けていると“秘境”や“神秘”といったブータンの枕詞が頭の中に浮かびます。20年前に国連に加盟した時に、20世紀の世界に16世紀を持ち込んだ国といわれた一端を垣間見た気がしました。

ラターナ・ジャビル

(マレーシア)

毎年、和歌山大学では学園祭が開かれます。去年はマレーシアからの学生が少なかったので参加しませんでした。今年は中国からの学生に次いで2番目に多い人数になったので参加しました。

マレーシアからの留学生は、三種類のマレーシアの料理を売ることになりました。留学生の店では、本場中国のギョーザ、アルゼンチンのトルティア、そしてスリランカのコロケも売りました。

学園祭の数日前、私は心配でした。このようなことをするのは初めてだったからです。いつも私の心の中にあったのは、大学祭のことでした。買い物に行く日、フィライワンと私は中谷さんと待ち合わせしていました。

私は、まず和歌山で唯一のタイ食品のお店に、東南アジアでよく使われるスパイスや食料品を買いに行き、それから果物や野菜を買いました。

中国人学生とマレーシアの学生のグループに分かれ、中国人組は中谷さんの家でギョーザの準備をし、私達は小坂さんの家で準備にかかりました。小坂さんにはお会いしたことがあったのですが、奥様にお会いするのは初めてでした。シャム、ライワン、ハノレンさんの奥さんは小坂さんと中筋さんの手を借りて料理の準備をしました。

そうそう、私達の作った三品の料理が何であったのか言うのを忘れていましたね。

カレーパフ、辛いサラダ、バナナフライ（学園祭の当日にバナナをその場で揚げました）でした。マレーシアでは、この三つの料理はとてもなじみのあるものですが、日本の人達にはマレーの料理は辛すぎると思ったので、日本風にアレンジしました。



私達は 200個のカレーパフとサラダを作ることになっていました。マレーシアと日本ではジャガイモの皮のむき方が違うということを見出し、興味深く思いました。私達は手前にむかってむいていきますが、日本では逆のようです。中筋さんにどっちが速いのか聞いたところ、彼女は「私は主婦だから私のやり方が一番よ」と言ったので皆で大笑いしました。

時間だけが過ぎていくのに、やることはたくさんありました。出来あがったピーナッツ風味のドレッシングを小坂さんに味見してもらうことにしました。とても緊張しましたが、彼女が「辛いけどおいしい」と言ってくれたのでほっとしました。

作業を始めてから五時間後、ようやく準備が終わりました。皆はぐったり疲れていました。

私達の努力は報われました。200個のカレーパフは始まって一時間程で売り切れてしまいました。留学生の店は、学園祭当日一番はやっていた店の一つでした。

WINコンコードの皆さん、いろいろありがとうございました。皆さんの手助けは、私達の日本での生活に彩りを添えてくださいました。

(訳 山下 礼)

アヌラ デ ゾイサ

(スリランカ)

私はスリランカでは大学の講師として、管理会計学を専門にしていたので、その専門分野の進んでいる日本で勉強するために、日本の文部省の留学生として平成3年10月スリランカから日本にやって来ました。もちろん、私はそれまで日本語を勉強したことがありませんでしたから、私の日本語との苦闘が始まることになりました。

日本に来て、まず、大阪外国語大学で6ヶ月間日本語の基礎を勉強した後、平成4年4月に和歌山大学に入学しました。外大で日本語を勉強している時、和歌山大学に入学する前に妻とその時8ヶ月だった息子を日本につれてくるつもりでしたが、実際に日本では家賃や必要な家具、電化製品の値段が高くて、家族と住むのはとても無理だと思いました。それは、私だけではなく何人かの同級生も悩んでいたことでした。そういう不安な気持ちで外大の勉強をしている時、WIN CONCORD から手紙が届いたのです。私に日本人からの手紙！驚きました。英語で書いてあったその手紙を読んで、私はもっと驚きました。その手紙は、私がどうやって買おうかと悩んでいた家具などをただで提供してくれるという内容だったのです。言うまでもなくそれは私たち留学生にとって最大の援助でした。その手紙が私とWIN CONCORD の長い付き合いの始まりだったのです。

幸いにも、私は大阪府阪南市で大変家賃が安い府営住宅に入ることができました。そして、このことをWIN に連絡したところ、私がまだ外人にいたころの3月の終わりのある日、WIN のメンバーの方が、トラックに机、テレビ、冷蔵庫、洗濯機などの必要なものを沢山積んで私のアパートまで持って来てくれました。そして、テレビ、洗濯機などのsetting までして、何時でも私たちが入れるようにしてくれました。この時、私は感謝の気持ちでいっぱいでした。

この様な留学生たちに対する援助は、私だけでなく、他の同級生たちみんなに対してもしてくださったのです。それで私は4月にスリランカから妻と息子をこのアパートに安心して迎えることができました。この時から私は和歌山大学大学院での留学生活を楽しく過ごすことができました。

その後、これまでの約2年間に亘る和歌山大学での留学生活を振り返ってみると、楽しかったこと、悲しかったこと、色々なことが思い出されます。特に、WIN Concord の皆さんとの付き合いは其中で最も色々な思い出を与えてくれました。私の印象に残っている沢山の思い出の中での幾つかは、次のようなものです。

*WIN の交流パーティーで皆さんと楽しく過ごした夜のこと。

*有田、清水の海瀬さんの別荘でのサマーキャンプでの魚釣り、バーベキュー、花火などで楽しかったこと。

*平成4年10月の大学祭ではWIN CONCORD の援助で留学生の店を開いて、それぞれのお国自慢の料理を提供して訪れた人達を楽しませたこと、それは和歌山大学では初めてのことであり、大盛況でした。

*平成5年の1月、富士通明石工場を見学したこと。そして、京都のホテルに泊まって、滋賀スキー場での生まれて初めてのスキーはとても素晴らしいものでした。

*平成6年1月、豊田市のトヨタ工場を見学して、湯の山でスキーをしたこと。

この様に私の和歌山の留学生活のなかで交流パーティー2回、それから見学旅行、留学生の店、サマーキャンプなどがそれぞれ2回行われて、どれもこれも私たち留学生にとって忘れることができない楽しい思い出となっています。特に、個人的には二つの見学旅行が私にとってとても役に立ちました。先に述べた様に、私は管理会計学を専門にしている学生なので、その分野で先進的なトヨタ、富士通などの会社見学が出来たことは私の日本での研究に極めて

重要な利点を与えたものです。

最後に、皆さんのこのような暖かい善意が、今後も和歌山大学の留学生たちに長く与え続けられる様に願っています。WIN CONCORD の皆様、本当にありがとうございます！

尚、私の日本での予定ですが、この4月から名古屋大学の経済学博士課程に進学することになりましたので、これから3年間まだまだ皆さんのお世話になることと思います。日本での勉強を終わって帰国しても、皆さんとの付き合いは一生続けるつもりです。今後もよろしくお願いします。

1993年度活動経過

4月11日 花見(和歌山城)

5月15日 第3回総会及び交流会

7/31 ~ 8/1日 キーキング (清水町海瀬様宅)

9/21 ~ 10/1日 ブータン・タイへの旅

10月16日 WIN インターナショナルパーティーへ参加

10月31日 大学祭「留学生の店」に協力

11月23日 蜜柑狩り・ホームパーティー(松下様宅)

12月23日 クリスマス ホームパーティー(海瀬様宅)

1月 2日 新年会ホームパーティー

1月 4日 新年会ホームパーティー(環 様宅)

1/12 ~ 13日 トヨタ自動車(株)見学・スキー

10月~4月 入居、転居、送別会、その他

フィッシュ アンド ラバッド パン

ウォーター デイック ミッド オブ

上記の活動の他、会員の皆様に留学生のホームビジットを受け入れて頂きました。

WINコンコードアルバムから





WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で、地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク（HAN Human Active Network）で結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして、世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上に「HAN」を構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され、地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

WINコンコード事務局

〒640 和歌山市大谷264-21

TEL 0734-52-7474 FAX 0734-52-6050